



土地改良区複式簿記の基礎知識



全国土地改良事業団体連合会

複式簿記の仕組みとそのイメージ

複式簿記は、全ての取引を**資産**、**負債**、**正味財産**、**収入**、**支出**のいずれかに属する勘定科目を用いて**借方**(左側)と**貸方**(右側)に同額となるよう記入する**仕訳**(しわけ)手法により記録、計算、整理する方法

最終的な決算書類として財産状況を表す**貸借対照表**と、一年間の損益状況を表す**正味財産増減計算書**にまとめられる。右の取引例のように、現金の増加(資産の増加)と借入金の増加(負債の増加)という2つの側面を記帳していくため、**複式簿記**と呼ばれる。

商業簿記においては、資産、負債の他、資本、費用、収益の語を用いて説明されているが、土地改良区会計においては、これに一部なじまない面があるため、資本—正味財産、収益—収入、費用—支出と置き換えている。

単式簿記は取引を一つの勘定科目にしぼり記帳、整理する手法

複式簿記における帳簿記帳の例

かりかた 借方	かしかた 貸方
現金100万円	借入金100万円



② いま手元に100万円の現金がある



① 100万円を銀行から借り入れた

左側の帳簿の合計と右側の帳簿の合計が常に同額となるよう整理される

単式簿記・現金主義とは

・単式簿記における会計処理は、現金による取引のみについて記録する

例) 土地改良区が備品として、測量機材1台を100万円で購入した。
5月1日に納品、5月31日に代金を支払った。

金銭出納簿(本事例では、様式例の一部を省略)

年月日	内容	款項	説明種目	入金	出金	残高
5. 31	備品購入 (測量機材)	維持管理費	備品購入費		1,000,000	8,000,000

複式簿記、発生主義とは

- ・複式簿記とは、1つの取引について、仕訳によって二面的に記録すること
- ・発生主義とは、資産の移動や収入、支出の発生について、発生事実に基づき記録すること

例) 土地改良区で備品として、測量機材1台を100万円で購入することとした。測量機材は5月1日に納品され、支払いは後日とし、5月31日に代金を現金で支払った。

測量機材という資産が増加

未払金という負債が発生

5月1日	(借方) 備品(測量機材) 100万円	(貸方) 未払金 100万円
------	---------------------	----------------

5月1日に資産の増加と未払金が発生した。

5月31日	(借方) 未払金 100万円	(貸方) 現金 100万円
-------	----------------	---------------

5月31日に現金資産が減少し、負債が消失した。

未払金という負債が消失

現金という資産が減少

取引を二面的(借方と貸方)に記録する

複式簿記は発生主義により取引を記録する

◎発生主義（減価償却等）による会計処理

発生主義では、現金の収支にかかわらず、取引による財務変動等を記録

- ・土地改良施設や建物の減価償却（資産の変動）なども記録
- ・現金の収支を伴わなくても、債権・債務が発生した時点で未収金、未払金として記録

◎仕訳による会計処理

『仕訳』とは、各取引による勘定科目ごとの増減を帳簿へ記録するため、勘定科目と金額を決定すること

- ・複式簿記による会計では、資産、負債、正味財産、収入及び支出の各要素について、それぞれの増加・減少を勘定科目ごとに記録・集計

仕訳と記帳の基本ルール

- ・全ての取引を**資産**、**負債**、**正味財産**、**収入**、**支出**に属する勘定科目により仕訳する。これらは借方、貸方において定位置(ホームポジション)がある
- ・**現金**は資産に属する勘定科目であり、資産のホームポジションは借方(左側)である。仕訳によって左側の借方に金額が記載されるとその額が増額となり、逆に、右側の貸方に金額が記載された場合は、その現金高が減額となることを意味する

それぞれのホームポジション

借方	貸方
資産に属する勘定科目	負債に属する勘定科目
支出に属する勘定科目	収入に属する勘定科目
	正味財産に属する勘定科目

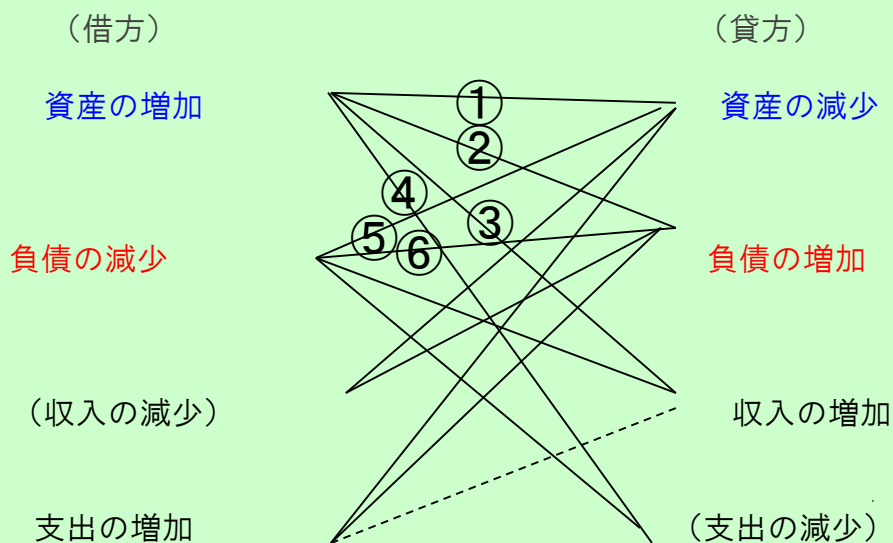
借方	貸方
9.1 現金 100万円	借入金100万円
9.2 人件費20万円	現金 20万円
9.3 現金 10万円	交付金10万円

例示と説明

9.1には100万円の現金残高があり、9.2に人件費を支給したため20万円減少したが、翌日の3日に10万円の交付金を得た。(残高は90万円)

借方と貸方間の仕訳の組み合わせ

- ・仕訳は、各勘定科目を左右に分け、左側を「借方」、右側を「貸方」とし資産、負債、収入及び支出の各要素の増加、減少を記録する
- ・組み合わせとしては次のようなものが考えられる



※ ○数字のケースを例として右に掲げた

左の組み合わせの一部例

- ① 工具を現金で購入した
- ② 農協から資金を借入れた
- ③ 賦課金の現金納入あり
- ④ 火災保険料の一部について還付を受けた
- ⑤ 農協の短期借入金を償還
- ⑥ 借入金により長期未払金を支払った

①から③のケースの仕訳例

① 工具1万円を現金で購入した

借方		貸方	
工具、器具等	10,000	現金及び預金	10,000

現金は資産の勘定科目の中の「現金及び預金」に当たる。貸方に1万円を記して資産を減少させるとともに、取得した工具について「工具、器具等」として借方に記し、1万円の資産として増加させる

② 農協から返済期限1年を超える100万円の資金を借入れた

現金及び預金	1,000,000	その他の長期借入金	1,000,000
--------	-----------	-----------	-----------

農協からの借入資金は返済期限1年を超えるものなので勘定科目は「その他の長期借入金」とし100万円を記入。同額を「現金及び預金」として借方の資産を増加させる

③ 組合員から経常賦課金として5千円の現金納付を受けた

現金及び預金	5,000	賦課金収入	5,000
--------	-------	-------	-------

経常賦課金収入は、勘定科目として「賦課金収入」を用いる。貸方に5千円を記入。同額を借方欄の「現金及び預金」勘定に記し資産を増加させる

④から⑥のケースの仕訳例

④ 火災保険料の一部について保険会社から5万円の還付があった

借方		貸方	
現金及び預金	50,000	事務所費支出	50,000

火災保険料は事務所費支出として支払っていた。還付金の勘定科目としては「事務所費支出」を用い、貸方に仕訳することで5万円を減少させる。また、借方に同額を記し「現金及び預金」を5万円増加させる。

⑤ 農協からの短期借入金50万円について銀行預金から償還した

借入金	500,000	現金及び預金	500,000
-----	---------	--------	---------

農協からの借入資金は返済期限1年以内のものだったので勘定科目は「借入金」としていた。「現金及び預金」50万円による償還により完済するため借方欄に記す。

⑥ 1000万円の銀行借入を行い長期未払金を支払った

現金及び預金	10,000,000	その他の長期借入金	10,000,000
長期未払金	10,000,000	現金及び預金	10,000,000

銀行からの借入は長期借入資金なので勘定科目は「その他の長期借入金」1000万円。同額の「現金及び預金」をもって長期未払金を支払った。

勘定科目についての知識

・勘定科目はその事業体の性格、活動に応じて設けられ、資産、負債等に関しさまざまな勘定科目がある



土地改良区会計では約120、農協会計においては約200の勘定科目があるといわれる

・実態取引の内容、性格を端的に、かつ的確に表したものとして用いられる



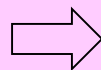
【資産】未収賦課金等、【支出】事務所費、【収入】他目的使用料収入

・慣例的な勘定科目用語も多い



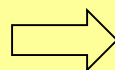
【資産】前払金、仮払金、【負債】前受金、未払金、預り金

・決算において勘定科目は最終的に貸借対照表等に表され、分析検討の単位となることから、類似する科目名との混同を避ける工夫がされている



【資産】職員退職給付積立金、転用決済金積立金、【負債】職員退職給付引当金、転用決済金引当金

・勘定科目の性格をよりはっきりさせるため語頭ないし語尾に定型語を冠している例もある



【資産】過年度未収賦課金等、【負債】長期未払金、長期借入金

貸借対照表及び正味財産増減計算書

貸借対照表

土地改良区の「**財政状況**」を表すもの

借方	貸方
資 産 現金及び預金 未収賦課金等 所有土地改良施設 建物及び付属設備 職員退職給付積立金 適正化事業拠出金	負 債 借入金 預り金 土地改良施設更新引当金
	正味財産 (正味財産 = 資産 - 負債)

正味財産増減計算書

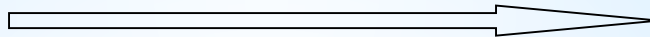
土地改良区の「**運営状況**」を表すもの

借方	貸方
支 出 維持管理費支出 適正化事業費支出 ○○事業負担金等 運営事務費支出 事務所費支出	収 入 賦課金収入 転用決済金収入 他目的使用料収入 ○○助成金収入 適正化事業交付金収入

決算試算表と正味財産増減計算書、貸借対照表の関係

決算試算表

資 産	負 債
	正味財産
支 出 + 指定正味財産 から一般正味 財産への振替 額	収 入 + 補助金等



正味財産増減計算書

当期正味財 産増減額	収 入 + 補助金等
支 出 + 指定正味財産 から一般正味 財産への振替 額	

貸借対照表

資 産	負 債
	正味財産
	当期正味財 産増減額

土地改良区会計基準による財務諸表体系

財務諸表等

貸借対照表

- ・事業年度末における全ての資産、負債及び正味財産の状況を表示
- ・資産の部(流動資産、固定資産)、負債の部(流動負債、固定負債)及び正味財産の部(一般正味財産、指定正味財産)に区分

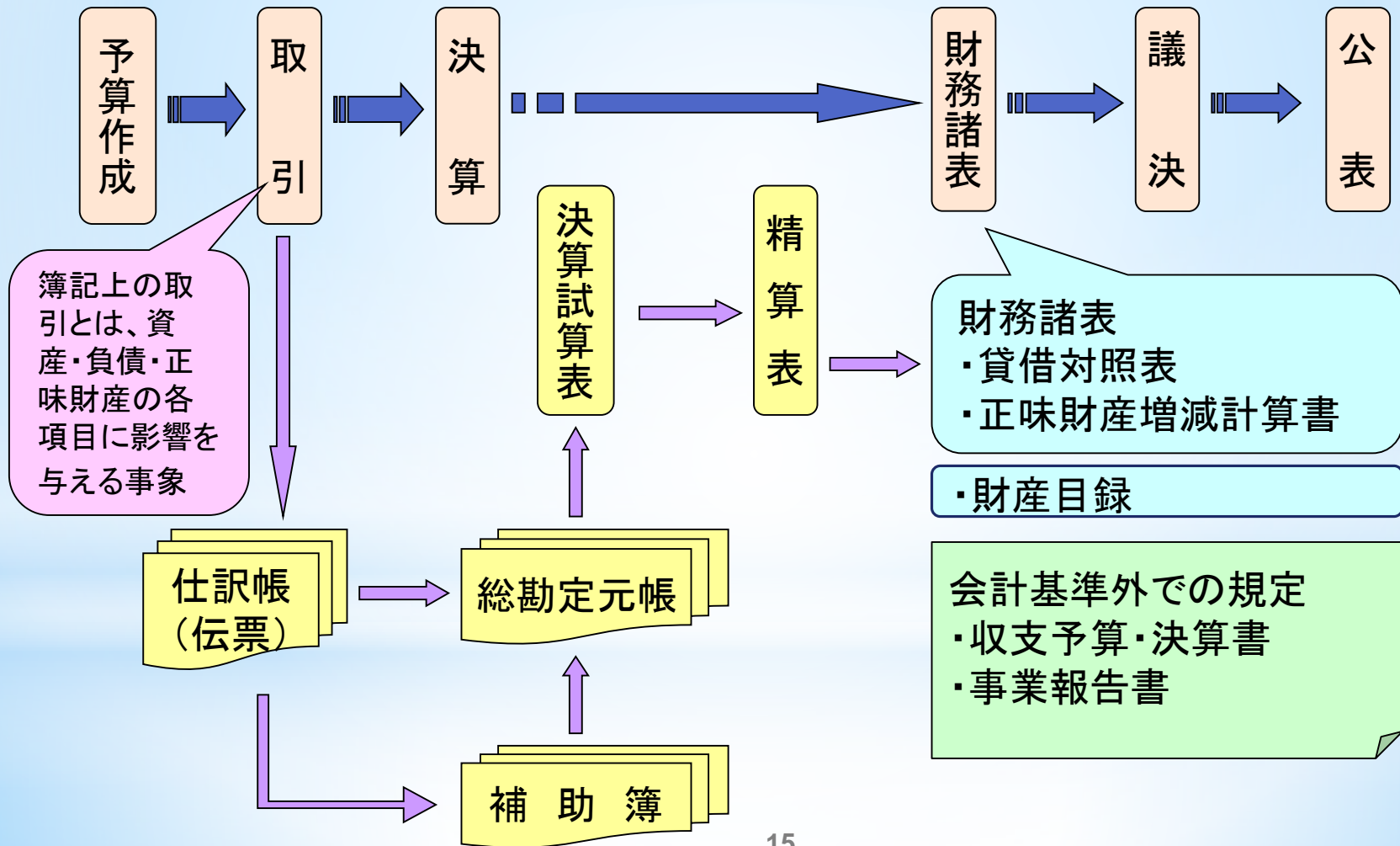
正味財産増減計算書

- ・一事業年度における正味財産の全ての増減状況を表示
- ・一般正味財産増減の部{経常収入(賦課金等)、経常支出(事業費等)、経常外収入(評価益等)、経常外支出(評価損等)}及び指定正味財産増減の部(用途に制約がある寄付財産)に区分

財産目録

- ・事業年度末における全ての資産及び負債につき、その名称、数量、価額等を詳細に表示
- ・貸借対照表と同様に資産の部と負債の部に区分し、正味財産の額を表示

土地改良区の財務会計の流れ



土地改良区会計基準と従前制度との比較

土地改良区会計基準

作成する財務諸表等(計算書類)

- ・貸借対照表
- ・正味財産増減計算書
- ・財産目録

(収支予算書、収支計算書、事業報告書については、会計基準外で作成を規定)

会計処理

- ・土地改良区会計基準に基づき、複式簿記により記帳
- ・仕訳により収支計算と財産の増減を同時に記帳
- ・減価償却費の計上など、発生主義を導入

従前制度

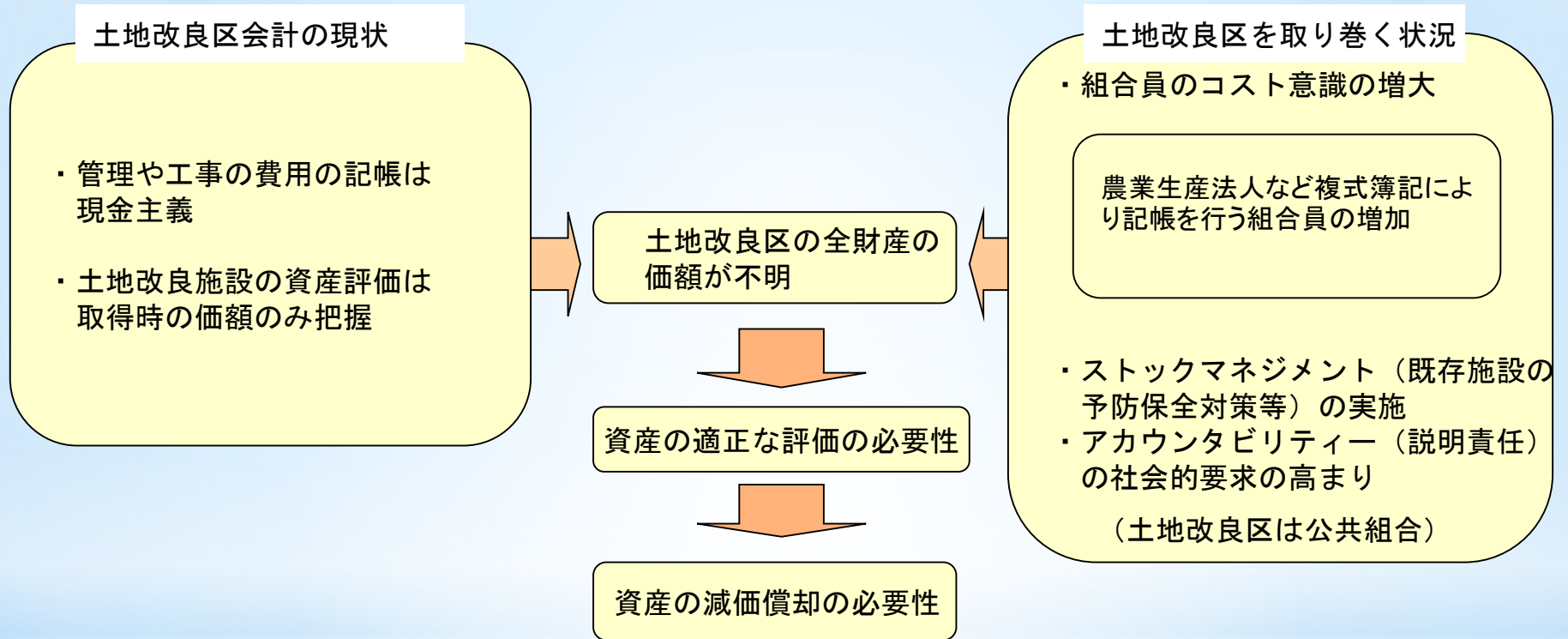
作成する会計書簿

- ・収支予算書
- ・収支決算書
- ・財産目録
- ・事業報告書

会計処理

- ・単式簿記により記帳
(主要簿:金銭出納簿、収入整理簿、支出整理簿)
- ・現金による取引のみを記帳(現金主義)

土地改良区会計の現状



- 土地改良区の資産の評価については、組合員のコスト意識の増大や組合員等に対するアカウンタビリティ（説明責任）の社会的要求の高まりを踏まえた対応が必要。
- しかし、ほとんどの土地改良区は、単式簿記を採用している現状。

土地改良区の会計処理における課題

- * 土地改良区におけるこれまでの会計処理は、単式簿記の現金主義によるものであり、現金以外の財産（資産と負債）の変動を把握できないという欠点がある。
- * 農業法人など複式簿記を行う経営主体が増大し、組合員のコスト意識が高くなってきているが、単式簿記では事業等に要した正確な費用を的確に把握できない。
- * 土地改良区は公共組合であり、補助金等の交付を受けていることなどから、国民に対する説明責任を果たすために、財務の状況を明らかにすることが求められている。
- * 近年、土地改良区の役職員による横領等の不祥事が増加する傾向にあり、土地改良区には不正を未然に防止できる会計処理の導入が求められている。

複式簿記会計方式を導入する必要性

- * 土地改良区の財産（資産・負債）の増減状況を日常的に的確に把握し、それを組合員等へわかりやすく説明するために必要
- * コスト意識が高まってきている組合員からの要請に応えるためには、各事業別に要した費用を正確に把握する必要
- * スtockマネジメントに即応して施設更新事業費を積立するために、発生主義（減価償却等）を導入し、その積立基準等を明確にする必要
- * 地方公共団体が複式簿記を導入する方向にあり、公共組合である土地改良区も複式簿記を導入し、組合員等へ説明責任を果たす必要
- * 記帳のミスや不正の発見が容易な複式簿記を導入し、不正を未然に防止するために必要

複式簿記方式の導入により期待できる効果

- 発生主義の導入により、「財産の状況」を常時、的確に把握
- 減価償却費などを含む「正確な費用(コスト)」を算出
- 更新事業費等の引当金を計上することで、ストックマネジメントの推進やライフサイクルコスト低減への対応が容易



- ・土地改良区の**資産や負債の額を的確に把握**(組合員のコスト意識の高まり等への対応)
- ・資金管理と資産管理が一体的に行われ、**記帳ミスや不正の発見が容易**(不正の未然防止)
- ・**各事業ごと**(維持管理事業、補助事業、受託事業、小水力発電事業等別)の**正確な費用(コスト)の把握**
- ・**修繕費や更新事業費を事前積立する根拠**(的確な予防保全対策や適期の更新事業の実施)**の説明が容易**